

もりおか復興応援フリーマガジン

# Stitch

[ステッチ]

TAKE  
FREE

Vol.12  
2014.06.27

発行 盛岡市

どこにいても、離れていても  
想っている、私のまち。

【特集】

未来は、自分でつくるもの。

18歳、私たちの選択

インタビュー  
浅田政志 (写真家)

岩手

発行日 / 2014年6月27日  
企画・編集 / 株式会社ラヂオもりおか  
〒020-0871 盛岡市中ノ橋通1-1-21  
TEL.019-621-7110 FAX.019-621-7153  
デザイン / 冬部幸治 (創造集団 志庵)  
印刷 / 山口北州印刷株式会社  
Special Thanks / 取材、制作にご協力いただいた皆様

※取材、撮影、制作など本誌作成にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。  
※掲載されている情報は平成26年5月31日現在のものです。発行後の情報変更につきましてはご容赦ください。  
※このフリーマガジンは、盛岡市の復興推進広報事業によって発行されています。※無断転載禁止

Facebookでも  
情報を発信中!



02 どこにいても、離れていても  
想っている、私のまち。

[特集]

04 **未来は、自分で描くもの。**

18歳、私たちの選択

10 三陸うまいもん紀行 冷たい麺編

12 3.11を知る 仮設住宅と住宅再建

14 インタビュー 浅田政志 (写真家)

18 ファインダーから  
被災地を見つめた3年間

22 Re:stitch ~読者のみなさんから~

23 プレゼント

見守っていてね  
前を向いて歩いて行くから  
忘れたりしないよ  
あなたはいつも、そばにいる。

今でも思い出せるから  
いつでもそばに感じられるよ  
どこにいても、離れていても  
私のまち。私は私。

いろんな話をした通学路  
いつか入りたかった喫茶店  
ワクワクしたお祭りの夜のこと

だけど、目の前に広がる海と  
空を切り取る山のかたちは  
ちいさなときから変わらない  
やっぱりこは、私のふるさと。

1年、2年、3年……  
少しずつ作られていく  
知っているようで知らない  
新しい私のふるさと。

何ごともなかったような青い海と、  
何もなくなつた草だらけの原野が  
いつしかこのまちの風景になった。

どこにいても、離れていても  
想っている、私のまち。



## いちばんは「やりたいこと」が その場所にあるかどうか

**stitch** (以下 **S**) ● まずは、簡単に自己紹介をお願いします。

**下窪省吾さん** (以下「**下窪**」) ● 生まれも育ちも宮古で、市内の漁協に勤めています。就職したばかりなので、できる仕事はまだ限られています。震災で汚れたロープ等をきれいにしたり、貝毒やプランクトンの調査をしています。

**大久保祥子さん** (以下「**大久保**」) ● 大槌町出身ですが、被災して今の家は遠野にあります。大学の1年生で、管理栄養士を目指しています。野球部のマネージャーをしていた高校時代、合宿などでの食事づくりで栄養に興味を持ち始めたのがきっかけ。そのときアドバイザーしてくれた管理栄養士さんに「かっこいい」とって憧れて。

**松本祐太さん** (以下「**松本**」) ● 釜石

特集 座談会

# 未来は、自分で描くもの。 18歳、私たちの選択

今回、stitchが企画した座談会の主役は、沿岸地域で生まれ育った18歳の若者たち。東日本大震災発生時は、まだ中学3年生。この春高校を卒業し、それぞれの進路を選択したみなさんに、この3年間で感じたこと、地元への思い、いま見つめている未来のことなど、率直に語っていただきました。

思ったりもしますが、同級生はほとんど市外に出て行ったし、自分ぐらい残ってもいいかなって。

**松本** ● 自分は外に出てみたいと思っていました。にぎやかなところに行つて、いろんなものを見てみたいなあつて。「鉄道会社に就職」を希望してい

市の両石という、海の近くで生まれ育ちました。釜石商工高校の機械科を卒業後、三陸鉄道に入社し、今は久慈市で運転士候補生として勤務しています。

**山田佳波さん** (以下「**山田**」) ● 私も大槌町出身で、大久保さんとは小学校からずっと一緒。震災で実家が被災し、高校は母の実家がある山田町から通いました。高校での簿記の授業が好きだったのがきっかけで税理士を目指すようになり、今は専門学校で勉強しています。

**S** 地元で就職したふたりに伺います。外に出たいっていう気持ちはなかった？

**下窪** ● 地元がよかったです。方向音痴なので(一笑)。都会は遊ぶところがいっぱいありそうでいいな、と



**大久保祥子さん** \*おおくぼ・しょうこ  
大槌町生まれ、盛岡市在住。大槌高校では野球部のマネージャーを3年間務めた。管理栄養士を目指し、盛岡大学で学んでいる。盛岡市「しえあハート村」在住。

たので、都会だったら選択肢が広がるし。三陸鉄道に入社できていなかったら、そうしていたと思います。

**S** 盛岡の学校に進学したふたりは、進路をどうやって決めましたか？

**山田** ● (アレルギーなどの) 体質を親が心配して「親戚などが近くにいるところに」と希望したのもありますが、なにより自分がやりたいことを学べるのがこの学校だったので。

**大久保** ● 宮城の大学も考えたけど、盛岡大学はカリキュラムなどがしっかりしているなと思ったし、より自分が学びたいことを学べると感じたので。それに、兄や高校の先輩など、盛岡に知り合いが多かったのもあります。

## 震災を経験し、 自分のなかで変化したこと

**S** 震災が起きたのは、みなさんが中学校を卒業するときでしたよね。当時

学校で待っていないければならず、家族と再会できたのは1週間後。その後避難所に移りました。「家が流された」と知ったのは2週間くらい経ってからでした。

**山田** ● 当時何を考えていたか、あまり覚えてないんです。でもだんだん落ち着いてきてから考えていたのは、親や家族のこと。親って「うるさい」と思っていたけど、震災で一時的に母の安否が分からなくなったときは不安で。それから「家族のそばにいたい」と思うようになったし、親の言うことも素直に受け入れられるようになりました。

**大久保** ● あの時まだ中学生で、状況が飲み込めず「なんで？」としか思えなかった。知っている人が亡くなつて、その数が増えていって……。父とすぐに会えなかったのも不安で、改めて「あたりまえ」と思っていた家族の大切さに気づいたというか。ケンカも相手がいなくてできないし(笑)。



**山田佳波さん** \*やまだ・よしは  
大槌町生まれ、大久保さん同様「しえあハート村」在住。小さい頃から絵を描くことが好きで、大槌高校では美術部。上野法律ビジネス専門学校で税理士になるべく勉強中。



**下窪省吾さん** \*しもくぼ・しょうご  
宮古市生まれ、在住。高校を卒業後、地元の漁業協同組合に就職。宮古水産高校時代は「マリンスポーツ部」に所属し、スキューバダイビングの免許を取得している。

を覚えていますか？

**山田** ● 1、2年は卒業式の準備で学校にいて、私たちは3年生は帰宅していた人が多かったです。うちは自営業だったので、祖父母と父、高校を卒業し大学進学準備をしていた姉も家にいて一緒でした。外に働きに出ていた母だけいなくて、すぐには会えなかったのが心配しました。

**大久保** ● 兄と弟は学校、祖父母と母、私ที่บ้านにいて、避難しました。釜石市で仕事をしている父と連絡がつかず不安だったんですが、2、3日後にやっと会えてほっとしました。

**下窪** ● 卒業式の予行練習が終わって下校し、友だちの家で遊んでいたときでした。うちは海から離れているし、津波の直接の被害はなかったけど、仕事に出ている両親が帰って来ず、特に父の職場は魚市場の近くなので一瞬「ダメかも」と思いました。翌朝帰ってきたのでよかったです。

**松本** ● 登校日だったので学校にいました。生徒は家族が迎えにくるまで思ったよりしましたか？

**S** 子どもなりに「我慢しなきゃ」とか思ったりしましたか？

**松本** ● 避難所での生活で好き嫌いをしなくなりました。好きなものだけ食べられる状況じゃなかったし、食べたくても食べられない人もたくさんいたので。

**大久保** ● 高校を卒業したら進学したいと前から思っていたけど、高校入学前に震災が起きて、家も無くなつて……。大学ってお金がかかるじゃないですか。弟もまだ小さくてこれからもっと学費がかかるし「やめようかな」とも思いました。だけど「やっぱり進学したい」って親に言ったら、「あなたが頑張れるんだっつらいよ」って。

**山田** ● 家が被災して、一緒に住んでいた祖父母とも離れて暮らすようになったりして、家族にいろんな変化があったから「あんまり我がまま言わないように」と思いました。でも親は「自分が行きたいところへ行きなさい。ただし、やるなら最後まで頑張る」

「なさい」と言ってくれて。今、好きなことを学べて本当に楽しい。親に感謝しています。

**S** どちらもすてきな親御さんですね。「しっかりとやらなきゃ」という気持ちが強くなった？

**大久保** ● うーん、でもそんなに自分を追い込んではいけません。勉強するのはあたりまえだけど、自分がやりたいことだから「普通に」頑張ろうって。親も必要以上にプレッシャーをかけてきたりはしないです。

「空気を読んだほうがいいのかな」と思ったことはある

**S** ちょっと変な質問かもしれませんが。「被災地の子どもはこうあるべき」というプレッシャーを感じたことはないですか？ 常に「感謝」や「復興」を口にしなければいけないということか……。

**下窪** ● そうですね……（少し考えて）「自分の意志ではなく、空気を読んだうえで」地元に残ったほうがいいのかな」と思ったことはあります。

**山田** ● 高校で就職ガイダンスがあったとき、取材の人にカメラを向けられ「将来、復興に携わりたいと思いませんか？」と質問されたことがあります。高校に入ったばかりだったし「まだそこまでちゃんと考えてないんだけど……」と思いつつ、「はい」って（笑）。強制されたわけじゃないけど、そういう答えを期待されているんだらうな、とは感じました。

ただ私  
大久保 ●

は、「将来（大榎）絶対戻らなければならぬ」とは思わないです。見捨てるとか、悪い意味じゃなくて。自分が好きな道に進みたいし、それを実現できる場所で頑張りたい。そうしっていくか、大榎でセミナーや講座を開

催するとか、自分ができるところで地元貢献できたらいなって。あんまり地元にしばられても苦しいだけだし、（辛いことを）引きずっちゃう。

**S** 地元に戻らない＝地元を捨てる、ではないんですね。

**松本** ● そうですね。自分だって「地元のために残っている」わけじゃない。やりたい仕事があるから来たから、そこに就職できたからここにいて、っただけなので。

**S** 下窪さんは、地元を離れた友だちに思うことがありますか？

**下窪** ● 特にないです。自分も「ここにいたいな」と思って残ったのだから。5月の連休に友だちが帰ってきて、「遊びに行こう！」ってさんざん連れ回されたり、仕事の愚痴を聞かされたときは、面倒くさいなあと思うくらいで（笑）。でも、みんなが戻っていった後は寂しいですよ。俺どうしたらいいの？ みたいな（笑）。

**S** 最後の質問です。地元は自分にとつてどんな場所？

**下窪** ● 好きだけど、なにもなくてつまらない、とも思う（笑）。だけど自分が生まれ育った場所はここだけ。だからどんな風に復興していても「自分のまち」という気持ちは変わらないと思います。

**大久保** ● いろいろ思いはあるけど、嫌いじゃない。家があった場所に行くのと、どこになにがあったか今もはっきり思い出せません。それが苦しいときもあるけど、寂しいときに大榎の家で何かを思い出すと、なんかホッとします。何もなくなっちゃただけから、大きく変わっちゃうかもしれないけど、自分が知っている大榎の面影は少しでも残っていてほしい。

**山田** ● 自然だけは今のままにしてほしい。時々、震災前の大榎の写真を見ることがあるんですが、盛岡は山が遠くにあるので、やっぱり近くに自然がある大榎はいいな、って思いま



**松本祐太**さん \*まつもと・ゆうた  
釜石市生まれ、久慈市在住。高校卒業まで釜石市の両石で育つ。三陸鉄道に入社し、運転士候補生として奮闘中。はじめての一人暮らしも奮闘中とのこと。

す。それから「マスト（シヨッピングセンター）」などのランドマークもずつとそこにあつてほしい。あの建物が見えてくると「大榎に帰ってきたな」って思えるから。

**松本** ● 家があった両石は、海が近くて、景色がきれいなところ。海藻がいた漁網の匂いを感じたりすると「ああ、地元に戻ってきたな」って思います。お年寄りが多いところだったから、いざ復興したとき、若い世代もたくさんいるような、活気があるまちになつたらいいなと思います。

〈撮影協力〉  
異人館  
宮古市高浜1-10  
TEL 0193-63-0065  
営業時間／11:00～20:00  
定休日／火曜

宮古湾を臨むロケーションに立つ、洋館の喫茶店。震災で津波の被害にあったものの、3年を経て今年4月下旬に復活オープン。名物の「甘夏パフェ」、本当においしかったです！

# 三陸 とうまいもん紀行



## 夏季限定！ 冷え冷えわさびラーメン

### わさびラーメン

700円

「レストランばあぶる」は、地元の主婦が作った料理を提供する農家レストラン。「夏はわさびラーメン」とお店も太鼓判を押すこのメニューは、リピーターも多い夏季限定の人気ラーメン。冷たいスープにわさびのさっぱりした辛さが食欲をそそる。トッピングには野田産わかめも。夏の日差しを浴びた日は、このラーメンで暑さを吹き飛ばそう！

### 道の駅のだ レストランばあぶる

- 岩手県九戸郡野田村大字野田31-31-1
- ☎0194-78-4191
- 営業11:00～15:00
- 休 水曜



「夏だけのおいしさ、どうぞ味わいに来て下さい!」と、ばあぶるスタッフのみなさん



## 特選岩手素材、冷やし天ぷらうどん

### 冷やし天ぷらうどん

750円

地産地消にこだわり、山田町や岩手産の特選素材を使った「打ちたて、ゆでたて、あげたて」のうどんが味わえる店。宮古市重茂の昆布、山田町の煮干しを使ったダシは香り豊か。つるつるの自家製麺に、あげたてサクサクの天ぷら、とろろと温玉をトッピングした満足度の高い一杯。2014年7月には仮設店舗から常設店舗に移転。

### 釜揚げ屋

- 岩手県下閉伊郡山田町長崎1-9-2(仮設店舗) / 山田町山田4-5-5(新店舗)
- ☎0193-82-2173
- 営業11:00～15:00
- 休 月曜



「つるつる&サクサクの食感が自慢です!」と、店主の川村芳宏さん



暑い夏もこれで乗り越えよう！  
三陸でしか味わえない夏に食べたい冷たい麺をご紹介します！

## 三陸の海の幸たっぷり、爽快冷製パスタ

### 海の幸の冷製パスタ

おまかせコース内一品

大船渡盛駅前の本格イタリアン。ウニ・焼きホタテ・エビ・ホヤの塩漬けなど三陸の海の幸に、葉わさびのジュレを合わせた贅沢な逸品。一口食べると海の香りとジュレの爽やかさが口いっぱいに広がる。ワインと一緒に飲みながらも! ディナーのおまかせコースで注文できる。ランチは女性向けDNAコース(2,160円)が人気。

### ポルコロッソ

- 岩手県大船渡市盛町10-1
- ☎0192-26-0801
- 営業ランチ11:30～14:00(L.O)、ディナー18:00～
- 休 だいたい火曜



「夏らしい海の幸をお楽しみください!」と、店主の山崎純さん。



## ゴマ香る、夏にうれしい冷やし担々麺

### 冷やし担々麺

700円

陸前高田で担々麺が自慢の人気店。自家製にこだわった白ゴマペーストとピリッと辛いラー油、陸前高田の八木澤醤油を使った肉みそが味わい深く麺に絡みつく。麺はつるつると喉越しがよく、シャキシャキのねぎときゅうりがアクセントに。暑い夏に食べたい冷たい麺。担々麺白・黒(650円)もおすすめ。

### 熊谷

- 岩手県陸前高田市竹駒町字滝の里15-3
- ☎11:00～15:00
- 休 月曜



「こだわりの担々麺を『冷し』でどうぞ!」と、店主の熊谷成樹さん



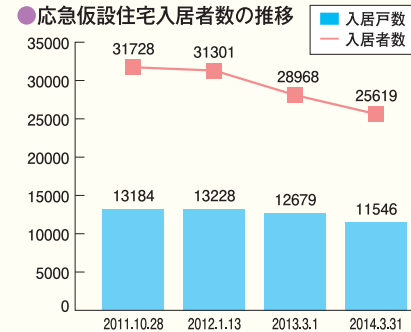
# 仮設住宅と住宅再建

震災から3年が経ち、復興まちづくりに取り組む被災地の住宅事情も、少しずつ変化をみせています。今回のstitchは、暮らしのベースである「住まい」をテーマに、仮設住宅と住宅再建のいまを伝えます。(取材協力/岩手県建築住宅課)

## 仮設住宅のいま

仮設住宅の供与期間は、建築基準法の定義により原則として2年以内。ただし、地域の実情等をふまえ、災害救助担当主管部局の判断により期間を延長することが可能。よって2年で強制退去ということは無いが、住居地区の移動を要請する可能性はあるという。

とはいえ、仮設住宅の耐用年数はそれほど長くない。いかに



に耐用年内に住宅再建させるかが課題となる。

## 住宅再建を担う

### 「地域住宅生産者グループ」

現在、岩手県内では被災者の住宅再建を担う「岩手県地域型復興住宅推進協議会」と、協議会に登録する「地域住宅生産者グループ」が新たな展開を見せている。

「地域住宅生産者グループ」とは、県内の建築士・設計事務所、工務店、専門工業者、林業・木材産業関係者、建材流通事業者など複数の業種からなる体制で、「家づくりのチーム」とも言えるもの。通常はグループごとに建材の調達、人材の派遣を行うが、震災後の建築需要により資材、人材が不足。グループ内では住宅および集合住宅の生産が間に合わない状態が続いている。

そこで、グループの垣根を越え、必要な資材、人材を必要などところに配置する仕組みを整備。加えて、建主とグループをつなぎ、理想やニーズに沿った家づくりのパートナーをみつける「マッチングサポート」も運用を始める。

なお、「岩手県地域型復興住宅」のウェブサイトには、地域復興住宅についてのさまざまな情報が掲載されている。

## 「岩手県地域型復興住宅」Webサイト

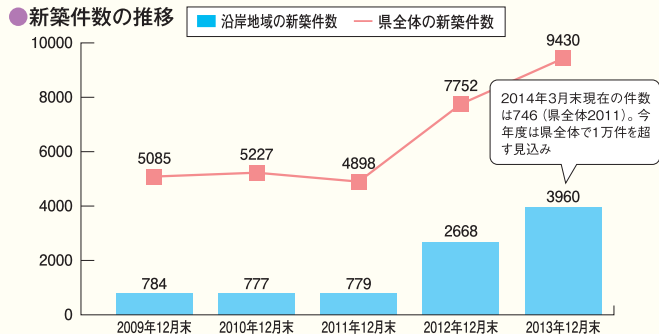
岩手県地域型復興住宅推進協議会の公式サイト。セミナーや相談会等、復興住宅に関わる情報を得ることができる。

<http://www.hukkoujutaku.sakura.ne.jp/>

## 新築住宅の着工数からひも解く震災からの住宅再建

次の表は、被災地域および県全体における新築住宅着工数の推移。数値は震災からの住宅再建を示すものではないが、震災が発生した2011年の翌年から、被災地域における新築件数が3倍以上も急増。

また年を追うごとに件数が増えていることから、住宅再建への取り組みが本格化してきていることがわかる。県内全体の数値も同様に、震災翌年から飛躍的に件数が伸びており、被災地域に限らず、内陸部など他の地域に住宅を建てるケースも少なくないことが読み取れる。なお、県や市町村による復興住宅(集合住宅含む)は数値の1〜2割程度とみられる。



震災で津波被害を受けた地域には、土地がない、土地を持っていても住宅を建てる許可が下りない、といった土地の取得、整地の問題が大きく関わっている。そのため、潜在的な建主の数にはさらに多いと考えられる。

## 参加者募集中! [Stitchプレゼンツ] 岩手三陸魅力発見ボランティアツアー

震災から3年、時間の経過とともに被災地の姿も変わってきています。だからこそ、Stitch読者のみなさんに「被災地の今」を知ってほしい。盛岡から陸前高田を巡り、岩手の魅力に見て触れて味わう旅をStitch編集部がご案内します! Stitch誌面でご紹介した方々との交流、三陸のうまいもん、現地の人との触れ合いやボランティア体験を通して、復興と防災について考え、その学びを未来に生かしませんか? SAVEIWATEボランティア

番屋宿泊体験もできる。盛岡発着のボランティアバスツアーです。



- 日程 / 7月19日(土)~21日(月) [21日は盛岡観光オプションツアー]
- 場所 / 陸前高田市(盛岡駅発着)
- 募集人数 / 20名(最少催行人数15名)
- 申込締切 / 7月10日(木) (募集人員に達し次第締切となります)
- 料金 / お一人様20,000円
- 申込・お問い合わせ先  
トラベル・リンク株式会社東京支店  
TEL03-3556-5012 E-mail info@travel-link.jp  
詳しくはこちら [www.travel-link.jp](http://www.travel-link.jp)  
※ツアー中、Stitch編集部が取材同行します。ご了承ください。

**S**毎年ご兄弟の写真を撮影していたというお父様の影響もありますか？  
毎年父が僕と兄の写真を成長記録として撮影し、年賀状にしていました。スナップじゃなく結構作り込んで撮る感

今回のStitchは、第34回木村伊兵衛写真賞を受賞した写真集『浅田家』の著者であり、秋田県のフリーマガジン『のんびり』の表紙写真などでも活躍する人気写真家・浅田政志さんにインタビュー！震災後に訪れた野田村での写真洗浄ボランティアのこと、写真を「残す」ことへの思いなどを伺いました。

**Stitch (以下S)** / まずは、写真家を目指したきっかけを教えてください。

僕の地元は津市という三重県の県庁所在地なんですが、田舎じゃないけど都会でもない、つてところで。思春期の頃は、都会で一人暮らしをすることにものすごく憧れていたんです。そのために進学したいけど勉強が好きじゃないから大学は無理、でも写真は中学生のときから好きでよく撮ってたから、写真学校に行こうかな、ただし東京は遠いしハードル高いから大阪にしておこうと(笑)。そういう不純な動機でした。

じで、お正月用に新調したお揃いの服を着てポーズとらされたりしましたね。でも、中学生ぐらいから「他の家はこういうことをしないらしい」と気づいてだんだん恥ずかしいと思うようになって… : 僕が進学で大阪に出たから「恒例行事」はなくなりました。でも、そういう環境が、写真家としての僕の原点なのかと感ずることはありませんね。

**S**浅田さんの「家族写真」、ユニークですね。自分の家族のいろんな思い出もよみがえってきたりして。

きっかけは、学生時代に「1枚で自分を表現する」という課題が出たことでした。「もし、一生に一枚しか写真が撮れなかつたら…」そう考えて、出てきた答えが「家族」。うちの家族の思い出の

ワンシーンを再現しよう、というのが始まりでした。

**S**ある夏の日、お父さん、お兄さん、そして浅田さんが次々に怪我をして、お母さんが看護師をしている病院に運び込まれた、つていう。

そういう「思い出の再現」から、だんだん「僕が死んだ時」とか、「家族でロックバンド」とか、あり得ないけどあるかもしれない「浅田家の未来」を撮るようになりました。

**S**そんな家族写真を集めた『浅田家』が、2008年に第34回木村伊兵衛写真賞を受賞。人気写真家として全国を飛び回り活躍する浅田さんですが、震災後、野田村でボランティアをされたそうですね。

東京も地震が大きかったし、仕事が無くなったり、世の中が騒然としていて「これは大変なことだ」つて。写真を撮るメンバーと「自分たちに何が出来るか」を話し合ったりしました。でも話をすればするほど「今、写真を撮ってもすぐに何かできるわけない」と。結局「ボ

Stitch INTERVIEW

# 浅田政志

[写真家]

写真はただの紙きれなんかじゃない。ボランティアに行って感じたのは、がれきの中から見つけ出された「写真のチカラ」でした。





ランテアに行ったほうがいい」という結論になったんです。

**S** そうして、野田村で写真洗浄作業を。

その年の4月下旬に仕事で八戸に行くことになり、その後「何かポランテアをして帰りたい」と、知人の車で海沿いを南下して、野田村に入りました。ポランテアセンターで登録して、そこで写真洗浄をする若者たちを見かけたので、手伝わせてもらうことにしたんです。家を流された人が写真を見つけて喜んでいる姿とか見て、「写真はただの紙切れなんかじゃない」と。そこで写真の大切さを改めて感じました。それから定期的に野田村に通いました。

**S** 野田村の人たちとのふれあいで、印象的だったことはありますか？

お茶やお菓子を食べながらみんなでしゃべりして、洗浄した写真も見ることができるといって「お茶会」をしたんですが、その中に歌が大好きなおじいちゃんが出て、みんなに促さ



浅田さんが写真学校在学中、課題として提出した「最初に撮った一枚」 ©浅田政志

## ふとアルバムを開いたとき、過去の自分から

### 教えてもらおうこととつてあると思う。

**S** 写真をモノとして残すのは、未来の自分のためでもあると。

何度も見返すことはなくても、ふとアルバムを開いたとき、過去の自分から教えてもらおうこととつてあると思う。それに「アルバムを作る」行為自体がかけがえないものだったり。うちに母親が作ったアルバムがあるんです。僕の小さいときの写真を並べたものとか、家族でどこかに行ったときのものとか。写真のレイアウトもその脇につけたコメントも上手ではないんだけど、母親なりに考えて作ってくれたんだなって。

**S** 私の携帯やパソコンには、整理しないままの写真がいっぱいあります。「いるもの」「いらぬもの」が混在して、残したい大事な写真が埋もれてしまっているというか……。早めに整理しないと！

そうですね！ このインタビュアーを読んでいる人が「昔のアルバムを久しぶりに開いてみようかな」「写真の整理をしてみようかな」と思うきっかけになったらうれしいなあと思います。

れて「じゃあ」って感じで歌を歌ってくれたんです。たぶんまの歌なのかな？ 歌っている言葉はあまりわからなかったけど「歌っていいなあ、すてきななあ」って心に沁みました。その人が若い時の写真を見つけて「俺だ、俺だ」ってうれしそうに何度も言っている姿も印象に残っています。ちいさなまのだから、みんな知り合いみたくて、写真を見ても「これ、〇〇さんだ」って盛り上がりがあったり。僕はよそ者だけど「こんなお祭りがあるんだよ」「へえー、そうなんですか」って感じで自然に会話が始まる。写真を通して野田村のことをたくさん教えてもらいました。

**S** 写真がつなぎ役になったんですね。

1枚の写真で話が弾んだり、かつての自分との対話だったり、写真っていろんなつながりを生みますよね。でも、プリント写真はがれきの中から回収されたけど、パソコンやハードディスク、DVDはほとんど回収されない。た



浅田政志 [あさだ・まさし]

1979年三重県津市生まれ。高校を卒業後、大阪府にある日本写真映像専門学校に進学。在学中より自身を含めた家族写真を撮り始める。写真集『浅田家』（赤々舎）で第34回木村伊兵衛写真賞を受賞。『Tsu Family Land 浅田政志写真展』（2010年三重県立美術館）、『LOVE展』（2013年六本木ヒルズ森美術館）をはじめ、国内外で個展、グループ展を精力的に開催している。著書に『NEW LIFE』（赤々舎）、「家族写真は」である。（亜紀書房）、「卒業写真の宿題」（赤々舎）など。

震災前から、写真をアルバムに残すことの大切さを伝えよう、という「アルバムエキスポ」というイベントに参加していたんですが、震災で改めてそのことを思いました。野田村だけでなく、被災地のいろんなところで写真を助けよう、一人でも多くの人に知って欲しい。そして写真を「モノ」として残す大切さを知って欲しい。それで「アルバムのチカラプロジェクト」というのを立ち上げて、クラウドファンディングでお金を集め、本を作っているところです。

ぶんその中にも写真のデータがいっぱい入ってたはずなんだけど、海水をかぶってるから取り出せない。同じ写真だけどここんなに違うのかと思いました。それに、がれきの中から集められたプリント写真って、最近のものは少なくて、ちよつと昔の……写真屋さんで撮影したようなポートレートだったり。

**S** 最近では、携帯やデジカメで撮ってプリントせずデータ保存する人が多いでしょうね。

震災前から、写真をアルバムに残すこ



菊地信平 [きくちしんぺい] 釜石市出身。東日本大震災により営んでいた写真館は被災。震災時、津波が押し寄せる直前から避難所の生活など市民の様子を撮影し続け、数万枚の写真を残す。

宮城寛明 [みやぎひろあき] 東京都出身。フリーカメラマン。震災後、ボランティアとして被災地に赴き、現地の様子を撮影してきた。震災風化防止に取り組み各地で写真展を開催。



2011年3月14日 © 菊地信平

「ボランティアの合間、カメラを手に撮影していると『よく来てくれたね』と話しかけてくれた。声をかけちゃいけないかなと思っていただけ、みなさんの明るさに僕自身が元気をもらった」。

写真が伝える 「あのとき」と「いま」

「どこを切りとっても絵のようで、遺体が怖いとか全くなかった。風景のひとつになっただけ」津波が来た時に撮った写真を見ると、逃げないで見ている人が結構いるんです。撮影していた時は気が付かなかったけど。津波から逃げる人、立ち尽くす人、避難所での暮らしや食べた物……。あの時を経験した人にしか映せない光景を記録し続けた菊地さん。半年後には、釜石シープラザで写真展を開催しました。「半年はまだ早いかなとも思ってたけど。ボランティアや地元の人、見てくれた人はみんな真剣だった。泣いている人もいましたね」。

宮城さんは、被災地での出

被災直後からまちのようすを撮り続けた釜石市の写真館店主 菊地信平さんと、被災3県を撮影してきたフリーカメラマンの宮城寛明さん。2014年3月1日から16日まで、マリオス盛岡地域交流センター展望室で開催された二人の写真展「東日本大震災3周年写真展」で、ファインダーを通して見つめ続けた被災地と復興への思いを伺いました。

夢中でシャッターを切った日々

震災前まで、釜石市で「菊地写真館」を営んでいた菊地信平さん。震災直後を「津波が来るとは思っていなかった。地震の被害の状況を『とりあえず撮っておけ』という気持ちでカメラを持ち出しました」と振り返ります。やがて津波が襲来。娘さんの「逃げるよー」という声にも気づかないほど夢中でシャッターを切り、撮影場所を求めて高台へと足が

向いたおかげで難を逃れましたが、自宅も写真館も被災。数ヶ月にわたる避難所生活を送りながら、まちの状況や人々の姿を写真におさめ続けました。

フリーカメラマンの宮城寛明さんは、2011年4月11日にボランティアとして宮古に入り、2週間かけて三陸を巡りました。「食べるものもない、死ぬかもしれないという恐怖のなか、支拂物資が届くまでどんな思いで過ごしていたのかと思うと胸が締め付け



「未来をつくるのは君だよ!」 © 宮城寛明

会いが「写真の力」を信じるきっかけになったと話します。「ある親子が、カメラを持っていて私に話かけてきたんです。『ぜひ写真を撮って下さい。私たちに一枚も写真が残っていないのです。思い出も、家も、家族も、みんな流されてしまいました』という言葉から、写真を撮らせてもらいました。そのとき、写真が必要なんだ、もっとも必要としてくれる人がいる、と思いました。被災地から戻って間もない6月、東京のスタジオで写真展を開催。「東京だから、被災地を実際には見たことのない人が多くて。お年寄りなどは、涙ぐんでじっと見てましたね。たった一枚でも写真は雄弁。見ている側にその向こう側を知りたいと思わせる力がある」。

その後も各地で写真展を開催するなど、被災地の『あのとき』と『いま』を伝え続けているふたり。現在も仮設住宅の家族を撮影する活動に取り組む宮城さんは「写真を見ることで当時を思い出し、震災を忘れない時間にしてもらえたら嬉しい」と話してくれました。

イラスト・ヤナセタカシ

**ヤマニ** ヤマニ醤油株式会社  
080-1850-2151

大祝 魚 花 素 玉 丸 酒  
笑顔が自慢です!  
硬式野球 年會  
居酒屋 大槌 満声天

盛岡市大通1丁目9-23 平凡盛岡ビル1F  
【営業時間】  
夕方5:00～深夜2:00 (L.O.1:00) 日曜休み

JRバス東北 きたいわて 久慈  
二戸 三陸鉄道 盛岡 宮古  
岩手県北バス

発売金額  
おとな 4,980円  
こども 2,490円

発売箇所  
・IGR 盛岡駅・二戸駅  
銀河鉄道観光 (IGR本社内)  
・三陸鉄道 宮古駅・久慈駅

列車とバスを乗り継ぎ  
ぐるっとめぐる「きたいわて」  
一定方向乗り降り自由の  
オトクな3日間周遊バス

好評発売中!

銀河鉄道観光 TEL.019-654-1489  
(平日9:00～17:00)  
観光庁登録旅行業 第1966号 総合旅行業務取扱管理者 大下 等夫 (社) 全国旅行業協会

いわて生協は、  
協同の力で  
支援活動を  
続けています。

COOP いわて生活協同組合

〒020-0690 滝沢市土沢220番地3  
TEL.019-687-1321  
<http://www.iwate.coop/>

信頼の、さらにその先へ。

土地と人とともに。  
みどりの銀行のイーハトーヴ宣言

豊かなくらし  
様々な金融サービスや商品  
などを通じて、当行の社会  
的使命でもある地域経済・  
産業の活性化を目指してい  
きます。

豊かなしぜん  
当行のコーポレートカラー  
である「みどり」に注目し、自  
然保護に取り組んでいます。

豊かなこころ  
協賛事業などを通じて、地域  
の人々、特に若い世代の  
「こころ」を育むなど、地域  
の人づくり活動に取り組ん  
でいきます。

**岩手銀行**  
<http://www.iwatebank.co.jp>

ハウジングサポート オリジナルブランド  
mu-k 温かい デザインハウス

**ハウジングサポート** mu-k

ハウジングサポート

あなたのそばにもっと身近に

あなたのそばにもっと身近に

**盛岡信用金庫**  
<http://www.morishin.co.jp/>

**THE WORLD BEER FESTA!**  
今年も開催決定! 2014  
2014年8月8日(金)、9日(土)、10日(日) 開催!  
□ 8日(金) 16:00～20:00 □ 9日(土) 12:00～19:00 □ 10日(日) 11:00～17:00

MOSS SPECIAL SUNDAY  
賑わいの日曜日  
2014年7月27日(日)開催!  
10:00～

緑日コーナー  
流しソーメン  
など

各イベントの詳しい情報はMOSSホームページまで  
<http://www.moss-build.com>

**MOSS**  
MORIOKA OODORI SHOPPING & SCREEN

人と人との調和を目指し  
新たなステージへ

**EP 永代印刷株式会社**  
〒020-0857 岩手県盛岡市北盛岡1丁目8-30 TEL.019-636-0011代 FAX.019-636-0099  
URL <http://www.eida-p.eonet.jp/> E-mail [eida@poplar.ocn.ne.jp](mailto:eida@poplar.ocn.ne.jp)

レディースカラーオーダーシューズのお店が  
本町通にオープンしました。

かんたん  
5ステップ!

レザー 100種類以上  
ヒール 8種  
インソール 3種  
アウトソール 5種  
足幅 2種

●左右サイズ違いOK! ●21.0cm～27.0cmOK! ●修理OK!

ground table  
ground table (グラウンドテーブル)  
盛岡市本町通1-10-11 tel 019-613-4655  
<http://ground-table.com/>

親しみと、魅力あふれる街並へ。  
フェザン駐車場棟は「フェザンテラス」に!

全国1号店 新星堂がカフェをプラスし  
新しいスタイルでOPEN!  
感性の空間 **TOUCH**  
SHINSEIDO

岩手  
初出店 プライダルリング専門店

ドゥ・エ・ドゥ 新星堂 **deux et deux** ドゥ・エ・ドゥ

**FES'AN TERRACE** FES'AN フェザン  
盛岡市盛岡駅前通1番44号  
TEL.019.(654)1188(代)

# 読者プレゼント

復興応援をしているお店や企業団体の  
おいしい逸品やオリジナルグッズをプレゼント!  
ご意見ご感想を書いてぜひ応募ください!!

## 1 米崎りんごジャム

3名様



岩手県陸前高田市、海の見えるりんご園あり。海風と太陽の光をたっぷり浴びて育った米崎りんごをジャムにしました。甘さ控えめ、無添加、無着色。りんごそのままの味が生きています。パンに、ヨーグルトに、スイーツのソースにしても!! 盛岡市絆・デザイン魅力創造事業制作パッケージデザインを採用しています。

提供 / SAVE TAKATA

## 2 てつっこ

5名様



おきあがり小法師と、南部鉄器。ふたつの日本の伝統が、現代風ゆるかわテイストのもとに融合した、手のひらでころころかわいい「てつっこ」。売上の一部を「文化なごしと支援プログラム」に寄付し被災地支援を行っています。※色は編集部にお任せください。

公式サイト <http://www.tecco-llc.net/tetscco/>

提供 / teccoLLC

## 3 のだ塩さばめしの素 たんたん米セット(2合用)

2名様



長根商店の復興再建の中から生まれた商品。昔ながらの製法で作られた「のだ塩」と北三陸で水揚げされた良質なサバを

使った磯風味の炊き込みごはんの素を岩手県栗石町産「たんたん米」2合分に混ぜ込んで岩手の恵みを味わって!

直販サイト <http://39kinoko.cart.fc2.com/>

提供 / 長根商店

## 4 甘塩うに2本、焼きうに2個セット

10名様



添加物不使用、良質な昆布で育った三陸産うに本来の濃厚な甘みを堪能できる逸品です!ごはんにぴったりなバフンウニ(赤)とムラサキウニ

(白)を使った甘塩うにをそれぞれ1本と炭火焼きうに2個セットです。

直販サイト <http://kaneto-net.co.jp/>

提供 / かねと水産

# Re:Stitch

~読者のみなさんから~

Stitch (ステッチ) に寄せられた声の一部をご紹介します。みなさんのご意見を参考に、よりよい誌面づくりに取り組んでいきます。これからもご意見・ご感想よろしくお願ひします。

銀次選手のインタビューをはじめ、個人に焦点をあてていてとても刺激をもらえました。自分は何をしてきたか、これから何をしたいのか、個人的に考えさせられました。きっかけをありがとうございます。

●20代 女性 / 会社員(盛岡市)

沿岸には同級生、友人が10人ほど住んでいます。幸い皆無事でしたが、津波の中泳いで肉親を助けた人もいました。猫が2か月後にもどって来たと言っている人もいました。生きていることが大事ですね。

●50代 女性 / 主婦(奥州市)

これからつくる若者たちの力強いメッセージがとても印象的でした。つながり、関わり…被災地だけでなく、今、震災をきっかけに全国で「つながり」を求める動きが活発になっています。誰でも誰かのために役に立てる喜びはどんな人にも生きる力を与えてくれる。「Stitch」が誰かのきっかけや気づきになるように、サポーター活動をさせてもらいます。これからも岩手の元気な声をたくさん届けてください。

●40代 女性 / 主婦(神奈川県)

毎回読ませていただき、復興について考えるいい時間を過ごさせて頂いています。今回は被災地の復興に力を注いでいらっしゃる方々の様子を知ることができました。3年経ち、これから何が出来るのか、もっともって考える必要があると感じました。地元から離れた方で震災の後地元に戻り頑張っている方々を、私も応援していきたいです。

●30代 女性 / パート(盛岡市)

初めて拝読させて頂きました。いつもラヂオもりおかさんを聴いていて気になっていました。岩手のみならず東北、全国の被災地の復興に沢山の方々立ち上がって活動しているのだなあと感じ、自分も小さくても出来ることを続けたいと思います。「Stitch」を県外に置いて、全国に広めるプロジェクトをしているのが素晴らしい事だと思います。とても勉強になる一冊ですね。

●20代 女性 / 会社員(滝沢市)

初めて拝見しました。先日親戚に会いに行き、SAVE IWATEさんでボランティアにも携わりました。広く山林も多い岩手県、復興した場所とまだ道半ばの場所がありますが、遠くから応援していきたいと思ひます。冊子があると様子がよくわかって嬉しいですね。

●40代 女性 / 会社員(神奈川県)

故郷はその姿を変えてしまいました。幼い頃、冬になると母が新巻鮭を作る為に鮭を買いに明け方大槌の川へ行った事を突如として記憶がよみがえりました。被災地だけ被災地でない盛岡、どうしても他人事と思ってしまう人が多いのも悲しいかな事実であります。この活動が必要なくなった日こそが復興なのでしょう。それまでほんの少しお手伝いさせていただきます。

●50代 女性 / 会社員(盛岡市)

大船渡で被災し盛岡に移住しました。でもいつも大船渡、高田、大槌と私の関わってきた地域の復興の「今」が気になる、情報を待っています。そんな時、このステッチを初めて手にして少しでも今の沿岸のことが分かりうれしく思ひます。これからも被災地の今を伝えてくれたら嬉しいです。

●50代 女性 / 主婦(盛岡市)

## 全国にStitchを広めようプロジェクト!



Stitchの配布にボランティアで協力してくれるサポーター(個人、企業・団体)を随時募集しています。Stitchを全国に広めることで、少しでも震災の風化を防ぎたい!みなさんのご協力、お待ちしております。(年4回発行 / 6月、9月、12月、3月)。

**A Stitch配布サポーター【一口10部から】** ご近所やお友達、グループなどにStitchを配布していただける個人。

**B Stitch サポーターショップ・団体【一口30部から】** Stitchを設置していただけるお店、企業、団体。

※詳細は、HPまたはFacebookページ (<https://www.facebook.com/moriokastitch>) をご確認ください。

【募集方法】メール・はがきに ①氏名(Bの場合は企業・団体と代表者名) ②住所(郵便番号も) ③電話番号 ④メールアドレス ⑤希望回数 ⑥(Bの場合)設置予定の場所と方法 ⑦ご意見・ご感想を記入の上、ラヂオもりおか内「Stitch編集部 サポーター係」宛てに応募。

【応募先・問い合わせ】 [stitch-supporter@morioka-fukkou.com](mailto:stitch-supporter@morioka-fukkou.com) ※郵送先住所は、左側のプレゼントページを参照

## 応募方法

- 応募方法 / 必要事項(希望商品、郵便番号・住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号、本誌入手場所、ご意見・ご感想)を記入の上、はがき、もしくはメールでご応募ください。
- 宛先 / 〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通1-1-21 ラヂオもりおか内「Stitch」編集部 プレゼント係
- アドレス / [stitch@morioka-fukkou.com](mailto:stitch@morioka-fukkou.com) ■応募締切 / 平成26年8月5日必着

## Stitch 設置場所

【岩手県内・盛岡】MOSS / クロステラス盛岡 / 盛岡南SCサンサ / ななっく / おでっ / アイーナ / 盛岡バスセンター / IGRいわて銀河鉄道 / もりおか歴史文化館 / 岩手県立図書館 / 盛岡市立図書館 / ジョブカフェいわてなど街中各店 / 岩手県内道の駅 / 三陸沿岸各店 【岩手県外】いわて銀河プラザ(東京) / 岩手もりおか復興ステーション(東京) / Cafe Hi famiglia(東京) / さくらWORKS <関内> (神奈川) / 喫茶ともしび(東京) / Rumble and Jungle(北海道) / 風の駅(京都) / OMAR BOOKS(沖縄) 他

次号 Vol.13 は、9月中旬発行予定